令和４年度
三好市歴史的風致維持向上計画

（進捗評価シート）

三　好　市

令和４年度進捗評価シート
三好市歴史的風致維持向上計画（第２期）（平成３１年４月１日認定）

□進捗評価シート（様式1）

①組織体制（様式１－１）
1 計画調整担当部署と事業担当部署の連携 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

②重点区域における良好な景観を形成する施策（様式１－２）
1 景観計画の活用と景観条例の運用 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

③歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項（様式１－３）
1 歴史的建造物保存修理事業 ・・・・・・・ 3
登録有形文化財「山下家別邸」保存修理事業
2 重要有形民俗文化財「祖谷の蔓橋」保存修理事業 ・・・・・・・ 4
文化財の保存・修復と活用事業
3 歴史的建造物等の公開及び活用事業 ・・・・・・・ 5
歴史的建造物空き家相談事業
4 茅葺屋根葺き替え資材確保事業 ・・・・・・・ 6
祖谷の蔓橋架け替え資材確保事業
5 景観整備事業 ・・・・・・・ 7
6 無電柱化事業（池田町及び井川町「うだつの町並み」） ・・・・・・・ 8
7 祖谷の蔓橋架け替え継承事業 ・・・・・・・ 9
茅葺屋根保存団体の設立及び継承事業
祖谷石積み工法継承事業
8 重要無形民俗文化財「西祖谷の神代踊」継承事業 ・・・・・・・ 10
伝統行事担い手支援事業
9 急傾斜地農業継承事業 ・・・・・・・ 11
10 佐野集落文化遺産総合調査 ・・・・・・・ 12
歴史的文化遺産の掘り起しと保存・継承活動

④文化財の保存又は活用に関する事項（様式１－４）
1 文化財の保存・活用・修理（整備）について ・・・・・・・ 13
2 文化財の保存・活用を行うための施設について ・・・・・・・ 14
文化財周辺の環境保全について
文化財の普及・啓発について
3 文化財の防災について ・・・・・・・ 15
埋蔵文化財の取扱いについて
文化財行政の体制について
各種団体の状況について

⑤効果・影響等に関する報道（様式１－５）
1 こいのぼり優雅に群泳　ほか ・・・・・・・ 16
2 三縄小に環境大臣表彰　ほか ・・・・・・・ 17
3 西祖谷・神代踊りなど無形遺産へ　ほか ・・・・・・・ 18
4 神代踊りの花がさ作り 西祖谷中学生9人が体験　ほか ・・・・・・・ 19
5 池田高探求科3年5人 方言班が優秀賞　ほか ・・・・・・・ 20

⑥その他（効果等）（様式１－６） ・・・・・・・ 21
1 観光入込客数の推移

□法定協議会等におけるコメントシート（様式2） ・・・・・・・ 22

評価軸①-1
組織体制

評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況
●計画調整担当部署と事業担当部署の連携	□実施済 ☑実施中 □未着手

計画に記載している内容	事業実施に向けての三好市歴史的風致維持向上計画協議会、三好市文化財保護審議会、三好市伝統的建造物群保存地区保存審議会との連携を深め、円滑な事業の推進を図る。

定性的・定量的評価（自由記述） *※定量的評価は可能な範囲で*

●計画調整担当部署と事業担当部署の連携
・計画実施体制に変更はなく、計画調整担当部署と事業担当部署の連携の下、事業が推進されている。令和4年度は、法定協議会の三好市歴史的風致維持向上計画協議会は令和4年5月10日に進捗状況や本年度から始まる事業の確認が行える現場での会議とした。（コメントは書面での回答とした）。三好市伝統的建造物群保存地区保存審議会は審議案件がなかったため行わなかった。令和4年度の三好市文化財保護審議会は令和4年4月１１日に通常開催し令和4年度の三好市歴史的風致維持向上計画第2期について事業内容等の説明を行い意見を伺った。

進捗状況 *※計画年次との対応*	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）
☑計画どおり進捗している □計画どおり進捗していない	第2期計画も4年目が終わり計画に基づき事業に順次着手し、関係担当部署と連絡調整等を行っているが、これまで同様に事業（建築及び土木工事）によっては歴史的風致に問題が生じてしまうものも少なくない。当計画の目的や最終的な目標について理解してもらい実効性のあるような協力体制を整えていく。

状況を示す写真や資料等

【三好市歴史的風致維持向上計画協議会の開催】

〇開 催 日　R4．5．10、三好市歴史的風致維持向上計画協議会を開催。
〇主な議事　・令和3年度事業進捗状況について
　　・令和4年度事業計画（案）について

【三好市文化財保護審議会の開催】

◎開 催 日　R4．4．11　通常開催

〇開催場所　池田中央公民館
〇主な議事　・三好市文化財指定、調査について・令和3年度事業報告について・令和4年度事業計画（案）について
　　・三好市歴史的風致維持向上計画第2期について

評価軸②-1
重点区域における良好な景観を形成する施策

評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況
●景観計画の活用と景観条例の運用	□実施済 ☑実施中 □未着手

計画に記載している内容	地域それぞれが持つ様々な種類の資源による独自の景観特性をはじめ、既存の法規制等の状況に応じたきめ細かく実効性の高い景観づくりを図るため、5つの区分（ゾーン）分けにより定める基本方針に基づき区域内の行為の制限や良好な景観誘導を図る。特に歴史的風致維持向上計画で設定する重点区域を「歴史的風致ゾーンⅠ・Ⅱ」として、その特性に応じた景観保全整備に努める。

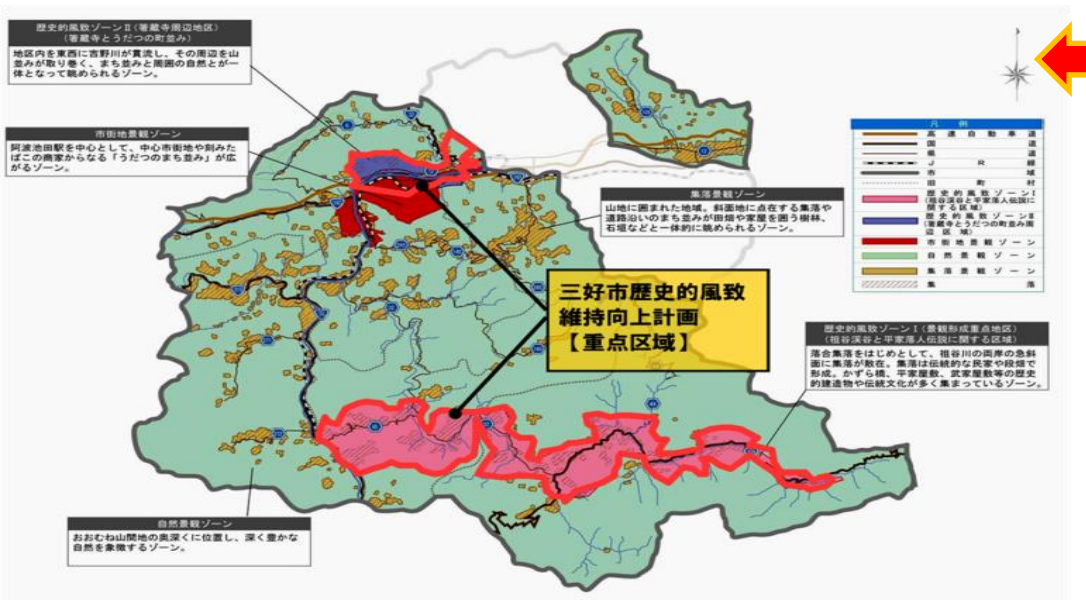
定性的・定量的評価（自由記述） *※定量的評価は可能な範囲で*

●景観計画の活用と景観条例の運用
・本市では、「歴史的風致維持向上計画」の認定に伴い、平成23年3月「景観計画」の策定、同年6月に「景観条例」の制定、平成24年4月1日に景観条例を施行した。その後、景観パンフレット作成、建築関係業者説明会開催など景観形成重点地区設置に向けての調査・説明会の開催や、景観計画区域内で工作物の新設等の行為に関して協議を求める区域を新たに設定した。景観重点区域である祖谷地区では、重要伝統的建造物群保存地区「三好市東祖谷山村落合」で、これまで景観改善事業として令和2年度まで20件の修理修景を行ってきた。令和4年度は修理修景案件はなかった。平成22年度からは重伝建地区内、令和2年度からは重伝建保存地区外（落合地区）において、景観改善を図るために赤や青のトタン屋根を古色系（茶色）で統一するための修景補助事業（屋根塗り替え）を整備し、令和4年度は2件の4棟の修景補助事業を行った。

進捗状況 *※計画年次との対応*	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）
☑計画どおり進捗している □計画どおり進捗していない	本市の景観計画は、市民、事業者、行政、三好市を訪れる方など関係者が一丸となって良好な景観づくりに取り組むことを目指している。そのため届出対象行為外への誘導が課題となる。今後においても、関係者への周知徹底を図るため継続的な啓発活動を行う。

状況を示す写真や資料等

三好市歴史的風致維持向上計画で設定する重点区域の「吉野川支流祖谷川流域祖谷地区」を「歴史的風致ゾーンⅠ」に、「吉野川中流域池田町及び井川町地区」を「歴史的風致ゾーンⅡ」に設定し、三好市歴史的風致維持向上計画と連携した良好な景観形成を図ることを目指している。



【三好市景観計画区域のゾーン分け（区分別）】

【三好市景観計画書（平成23年3月）】

【重要伝統的建造物群保存地区周辺の屋根塗り替え事業】

修　景　前

修　景　後

評価軸③-1
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況
●歴史的建造物保存修理事業 ●登録文化財「山下家別邸」保存修理事業	□実施済 ☑実施中 □未着手

事業期間	令和元年度～令和9年度
支援事業名	社会資本整備総合交付金（街なみ環境整備総合事業）
計画に記載している内容	・歴史的建造物保存修理事業/歴史的建造物の保存・活用を図るために、空き家となった町屋等を取得又は借り上げのうえ修理修景を行い、地域の歴史的風致の核となる施設として整備する。 ・登録文化財「山下家別邸」保存修理事業/井川町の町並みにある、登録有形文化財「山下家別邸」を購入し、修理修景を実施し保存及び活用を図る。

定性的・定量的評価（自由記述） *※定量的評価は可能な範囲で*

●歴史的建造物保存修理事業●登録文化財「山下家別邸」保存修理事業
・歴史的建造物保存修理事業として、市指定文化財「真鍋家住宅」の修理計画を策定し令和4年度は当該物件の西門修理工事の設計を行った。
・登録文化財「山下家別邸」は令和元年度から令和2年度に公開活用のための整備事業を行い、令和3年度より地元団体である辻まち活性化協議会が産直市や食堂として活用し、令和4年度からは他団体も交流スペースを辻まちガイドの勉強会等としての活用も行った。

進捗状況 *※計画年次との対応*	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）
☑計画どおり進捗している □計画どおり進捗していない	三好市歴史的風致維持向上計画（第1期）からの計画事業であった登録文化財「山下家別邸」は、令和2年度に公開活用に伴う工事を行い令和3年度より活用を開始。交流拠点施設として活用は増えている。今後は2階部分も整備し活用を図る必要がある。また、他の歴史的建造物についても各旧町村に「山下家別邸」と同様に保存修理と併せて活用を考えていく必要がある。

状況を示す写真や資料等

【市指定文化財「真鍋家住宅」】

令和5年度より整備を行う西門

【登録有形文化財「山下家別邸」】

辻まちガイド勉強会の様子

評価軸③-2
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況
●重要有形民俗文化財「祖谷の蔓橋」保存修理事業 ●文化財の保存・修理と活用事業	□実施済 ☑実施中 □未着手

事業期間	令和元年度～令和9年度
支援事業名	市単独事業
計画に記載している内容	・重要有形民俗文化財「祖谷の蔓橋」保存修理事業/重要有形文化財「祖谷の蔓橋」の保存・活用を図るために、3年に1度の架け替えを行う。また中期では、部分的な修繕を行う。 ・文化財の保存・修理と活用事業/経年劣化による破損がみられる指定文化財等の適切及び定期的な保存修理を図る。

定性的・定量的評価（自由記述） *※定量的評価は可能な範囲で*

●重要有形民俗文化財「祖谷の蔓橋」保存修理事業●文化財の保存・修理と活用事業
・昭和3年に復元修理が行われ、昭和30年に重要有形民俗文化財に指定されてからは、3年に1度の架け替えが実施され保存及び活用がされてきた。令和4年度は、これまで架け替えし2年経過後に小修繕を行ってきたがコロナの影響により来場者数が大幅に減ったため、大きな傷み等は見られず修繕等は行っていない。
・指定文化財の修理として、市の補助制度を活用し県指定天然記念物3件、市指定文化財（史跡）1件の修理を行った。

進捗状況 *※計画年次との対応*	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）
☑計画どおり進捗している □計画どおり進捗していない	・「祖谷の蔓橋」の架け替えに必要な材料となるシラクチカズラ約6tの確保が祖谷地区において困難な状況となっている。こうした状況を踏まえ、今後も引き続き国有林や民有林を有する関係者と蜜に連携し確保に努める。 ・近年の異常気象により昨年度と同様に災害による修理が多く、災害修理費補助金で対応したが、今後、災害件数が増加すると考えられるため予算の増額措置を行っていく必要がある。また、それに伴い文化財への保存に対する意識を高めていくため住民や学校教育における総合学習の場としても活用していく。

状況を示す写真や資料等

【県指定天然記念物 「東祖谷の社叢」栗枝渡八幡神社】
【市指定史跡 「栗枝渡八幡神社社地及び伝・御火葬場を含む社叢】

令和5年7月の大風による巨樹倒木

撤去後

巨樹倒木により史跡の破損

修理後

評価軸③-3
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況
●歴史的建造物等の公開及び活用事業 ●歴史的建造物空き家相談事業	□実施済 ☑実施中 □未着手

事業期間	令和元年度～令和9年度
支援事業名	市単独事業
計画に記載している内容	・歴史的建造物等の公開及び活用事業/指定文化財の建造物を維持管理しながら、地域住民や来館者に公開し、イベント等による公開事業を実施する。 ・歴史的建造物空き家相談事業/指定・登録・選定を受けてる歴史的建造物は、少子高齢化に伴い空き家が増加し多くの所有者が保存活用に頭を悩ませている。こうした状況から空き家相談窓口の設置や空き家相談会を実施する。

定性的・定量的評価（自由記述） *※定量的評価は可能な範囲で*

●歴史的建造物の公開及び活用事業について
令和4年度に公開活用されている指定文化財建造物は下記15件。選定文化財（重伝建）では9件。登録文化財では2件。
・市指定文化財「真鍋家住宅」・「馬宮家薬医門」・「西岡家住宅」（市指定文化財建造物3件中3件とも公開）
・県指定文化財「川人家長屋門」・「阿佐家住宅」・「箸蔵寺観音堂」（県指定文化財建造物3件中3件とも公開※一部内部は非公開）
・国指定文化財「木村家住宅主屋及び隠居屋」・「小采家住宅」・「箸蔵寺本殿他5棟」・「徳善家住宅」（国指定建造物9件中9件とも公開※一部内部は非公開）
・国選定文化財「重要伝統的建造物群保存地区「三好市東祖谷山村落合」公開住宅「長岡家住宅」他8棟（公有施設のみ公開）
・国登録有形文化財「山下家別邸」・「古本家住宅」（山下家別邸は調理体験室、多目的室として公開・古本家住宅は外観のみ）
※市指定文化財「真鍋家住宅」では、重要無形民俗文化財「西祖谷の神代踊」ユネスコ登録を記念し、写真展を実施。また併せて茶会も行った。
●歴史的建造物空き家相談事業について
相談会は実施できなかったが、井川町地区においては地元団体「辻まち応援団」が4年前に発足され辻町の活性化を図るため、空き家の修理や活用について相談を受けている。令和4年度の相談は3件（坂本家住宅・山下家北塀・曽我部家住宅）。

進捗状況　*※計画年次との対応*	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）
☑計画どおり進捗している □計画どおり進捗していない	各指定建造物は、外観からの見学等については概ね公開できているが、内部については空き家であったり、生活空間として現在住まわれている等の理由から公開していない建造物が多くある。これらの建造物については近年における文化財の公開に対する社会的なニーズの高まりなどの背景や、文化財の確実な次世代への継承について、所有者に理解や協力を求めイベント等による限定的な公開が行えるよう努めていく。

状況を示す写真や資料等

【市指定文化財「真鍋家住宅」】

池田町にある「真鍋家住宅」での写真展及び茶会の様子

評価軸③-4
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況
●茅葺屋根葺き替え資材確保事業 ●祖谷の蔓橋架け替え資材確保事業	□実施済 ☑実施中 □未着手

事業期間	令和元年度～令和9年度
支援事業名	市単独事業
計画に記載している内容	・茅葺屋根葺き替え資材確保事業/重点区域である祖谷地区には15棟の茅葺屋根建造物があり、これらの茅葺屋根維持管理のための茅（ススキ）の確保を実施する。 ・祖谷の蔓橋架け替え資材確保事業/重点区域の祖谷地区にある「祖谷の蔓橋」は、3年に1度の架け替えが行われている。材料であるシラクチカズラは1度の架け替えで約6t必要であるが、近年は採取できるシラクチカズラは減少傾向である。20年後から30年後の資材確保のため、人工による苗木づくりから山林への植樹活動を実施する。

定性的・定量的評価（自由記述） *※定量的評価は可能な範囲で*

●茅葺屋根葺き替え資材確保事業
・茅葺屋根葺き替え資材確保として、令和4年度も重点区域である重要伝統的建造物群保存地区「三好市東祖谷山村落合」内にある茅場及び「ふるさと文化財の森 京柱峠」にて、地区保存会と茅刈りを11月に行い、コエグロにより乾燥させている。（令和5年4月～5月に3尺締めにし茅倉庫に移す）
●祖谷の蔓橋架け替え資材確保事業
・蔓橋の資材確保として、地元小中学生にシラクチカズラの苗木植樹を行った。
開催日：令和4年7月7日　会場：東祖谷国有林　参加児童生徒数：17名

進捗状況 *※計画年次との対応*	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）
☑計画どおり進捗している □計画どおり進捗していない	・茅材の確保について、茅場は2箇所（重要伝統的建造物群保存地区「三好市東祖谷山村落合」、京柱峠茅場）あるが、高齢化により作業する者が減ってきており、2箇所の茅刈りが困難となってきている。今後は人材の確保（茅刈り体験会等）も併せて考えていく。 ・蔓橋の資材確保について、苗木づくりでは普及啓発も含め効果が出ているが、20年から30年後の資材確保のための植樹については足りていない。今後は植樹箇所を増やし確保及び管理について計画を立てる。

状況を示す写真や資料等

【重要伝統的建造物群保存地区「三好市東祖谷山村落合」及び京柱峠での茅材確保】

茅刈りの様子（京柱峠）

コエグロによって乾燥（落合）

【重要有形民俗文化財「祖谷の蔓橋」の材料であるシラクチカズラ苗木植樹】

約100株の苗木植樹の様子

評価軸③-5
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況
●景観整備事業	□実施済 ☑実施中 □未着手

事業期間	令和元年度～令和9年度
支援事業名	市単独事業
計画に記載している内容	山村集落やうだつの町並みに見られる、伝統的建造物の周辺景観との調和のために行う修景に要する経費の一部を助成。

定性的・定量的評価（自由記述） *※定量的評価は可能な範囲で*

●景観整備事業
重要伝統的建造物群保存地区「三好市東祖谷山村落合」にある個人所有建造物を対象に屋根の塗り替え及び張替えに対する助成を行い、景観の改善を行った。令和3年度までは49件94棟の塗り替えを行い、令和4年度は2件4棟を行った。また、令和2年度より伝建地区周辺（落合地区に限る）の建造物に対しても、同様の事業を行っているが令和4年度は0件であった。

進捗状況 *※計画年次との対応*	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）
☑計画どおり進捗している □計画どおり進捗していない	景観に配慮した屋根の塗り替えが順次進み、効果が表れているが、地区内の国道沿いは塗替えを終えていない建造物が残っている。今後、所有者や管理者に景観の向上や魅力度の向上等多くの向上効果が得られることを説明し、理解や協力を求めていく取り組みが必要。

状況を示す写真や資料等

【重要伝統的建造物群保存地区「三好市東祖谷山村落合」】

屋根塗り替え前

屋根塗り替え後

評価軸③-6
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況
●無電柱化事業	□実施済 □実施中 ☑未着手

事業期間	令和元年度～令和9年度
支援事業名	市単独事業
計画に記載している内容	池田町及び井川町のうだつの町並みおける景観再生を図るため、景観を阻害している電線等を地中化するとともに、車道・歩道・側溝等についても町並みに調和した美装化整備を行う。

定性的・定量的評価（自由記述） *※定量的評価は可能な範囲で*

●無電柱化事業
・池田町及び井川町のうだつの町並みの景観再生として、無電柱化について意見は出るが道路幅が狭く埋設物も多い理由等で進捗していない。

進捗状況 *※計画年次との対応*	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）
□計画どおり進捗している ☑計画どおり進捗していない	引き続き無電柱化推進体制の構築について検討を行う。

状況を示す写真や資料等

【池田町　うだつの町並み】

【井川町　うだつの町並み】

評価軸③-7
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況
●祖谷の蔓橋架け替え継承事業 ●茅葺屋根保存団体の設立及び継承事業 ●祖谷石積み工法継承事業	□実施済 ☑実施中 □未着手

事業期間	令和元年度～令和9年度
支援事業名	市単独事業
計画に記載している内容	各伝統的工法の継承によって、文化財の保護を図る。

定性的・定量的評価（自由記述） *※定量的評価は可能な範囲で*

●祖谷の蔓橋架け替え継承事業
・令和4年度は祖谷の蔓橋の材料シラクチカズラの苗木植樹を行うことで、祖谷の蔓橋に必要なシラクチカズラについて学んでいただいた。開催日：令和4年7月7日　西祖谷小中学生　参加児童生徒数：17名
●茅葺屋根保存団体の設立及び継承事業
・令和4年度は継承事業として茅葺屋根保存団体での実施はないが、重要文化財「木村家住宅」及び「小采家住宅」の屋根等修理に向けて、文化庁の補助を受け設計を行った。
●祖谷石積み工法継承事業
・令和4年度では、実施できなかった。

進捗状況 *※計画年次との対応*	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）
☑計画どおり進捗している □計画どおり進捗していない	各事業、高齢化に伴う後継者不足が一番の課題となっている。今後も引き続き地元の若い方への協力と理解を求める。また教育としても地元小中学生への啓発活動に取り組む。

状況を示す写真や資料等

【重要無形民俗文化財「祖谷の蔓橋」

「祖谷の蔓橋」の材料であるシラクチカズラの植樹を通して、貴重な資源であることを学んでいただいた。

【重要文化財「木村家住宅」（右）・「小采家住宅」（左）

茅葺屋根等の修理を行うために、耐震診断等の設計を実施した。

評価軸③-8
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況
●重要無形民俗文化財「西祖谷の神代踊」継承事業 ●伝統行事担い手支援事業	□実施済 ☑実施中 □未着手

事業期間	令和元年度～令和9年度
支援事業名	市単独事業
計画に記載している内容	少子高齢化に伴い踊り手や担い手不足が深刻化していることから、地域内外から伝統行事の担い手として高い志をもった人材を募るなど、支援事業を行い、伝統行事の継続を図る。

定性的・定量的評価（自由記述） *※定量的評価は可能な範囲で*

●重要無形民俗文化財「西祖谷の神代踊」継承事業●伝統行事担い手支援事業
・重点区域の祖谷地区にある善徳天満宮で、重要無形民俗文化財「西祖谷の神代踊」が毎年旧暦6月25日に奉納されている。近年は高齢化による踊り手不足から、地元小学生達に総合学習の一貫として練習から本番まで参加していただいている。令和4年度は3年ぶりに神代踊りが天満宮で奉納され、多くの観光客の前で披露された。開催日：令和4年7月23日　榛生小学校　参加児童数：8名
　また、神代踊りで使用される道具においても、担い手の育成が必要であることから、踊りに使用される花笠つくりの体験を行った。開催日：11月17日　西祖谷中学校　参加生徒数：9名

	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）
☑計画どおり進捗している □計画どおり進捗していない	少子高齢化、都市部への移住等により西祖谷山村の人口減少は著しく、担い手の育成が大きな課題であるが、今後も引き続き地元小学校等と連携し保存と伝承の推進に取り組んでいく。

状況を示す写真や資料等

【重要無形民俗文化財「西祖谷の神代踊」】

本番に向けて保存会の方から指導

天満宮で3年ぶりに奉納

神代踊りで使用される花笠つくりを体験

評価軸③-9
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況
●急傾斜地農業継承事業	□実施済 ☑実施中 □未着手

事業期間	令和元年度～令和9年度
支援事業名	市単独事業
計画に記載している内容	重点区域である祖谷地区において、急傾斜地農業の担い手不足が深刻化している。急傾斜地を利用し作られる農作物は独自のものがあることから、こうした農業の伝統技術を移住者や、地元小中学生に体験及び継承し技術の維持及び保存を図る。

定性的・定量的評価（自由記述） *※定量的評価は可能な範囲で*

●急傾斜地農業継承事業
・重点区域である祖谷地区において、祖谷在来種の保存と伝承の推進として、地元保存団体「祖谷雑穀生産組合」が耕作放棄地を活用してヤツマタ、稗、蕎麦の植え付けを行った。本年度もヤツマタ及びコンニャク芋の植え付けから収穫まで、地元小中学生に体験学習として参加していただいた。開催日：令和4年5月9日　会場：栂の峰共同圃場　東祖谷中学校参加生徒数：14名・令和4年6月23日　会場：栂の峰共同圃場　東祖谷小学校参加児童数：5名・令和4年10月3日　会場：栂の峰共同圃場　東祖谷小学校参加児童数：5名・令和4年10月13日　会場：栂の峰共同圃場　東祖谷中学校参加生徒数：14名
各種収穫後は、事業継続のために「食文化の継承」として、ブランド商品の開発も行った。

進捗状況 *※計画年次との対応*	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）
☑計画どおり進捗している □計画どおり進捗していない	少子高齢化、都市部への移住等により人口減少は著しく、担い手の育成が大きな課題であるが、今後も引き続き地元小学校等と連携し保存と伝承の推進に取り組んでいく。

状況を示す写真や資料等

【祖谷雑穀生産組合による急傾斜地の畑づくり】

雑穀植え付け体験の様子

収穫体験の様子

評価軸③-10
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況
●佐野集落文化遺産総合調査 ●歴史的文化遺産の掘り起しと保存・継承活動	□実施済 ☑実施中 □未着手

事業期間	令和元年度～令和9年度
支援事業名	市単独事業
計画に記載している内容	市内全域の歴史的文化遺産の掘り起しと保存、継承を図る。

定性的・定量的評価（自由記述） *※定量的評価は可能な範囲で*

●佐野集落文化遺産総合調査
・重点区域である池田町佐野地区は、四国遍路として平成26年に雲辺寺道が国の史跡として指定、平成30年には地区内にある建造物5件が国の登録文化財に登録された。令和元年から令和3年では地元住民による説明板や散策マップを作成した。令和4年度は総合案内看板作成のために地元住民と打ち合わせを行った。
●歴史的文化遺産の掘り起しと保存・継承活動
・市内全域において、令和2年度から行っている名勝調査事業が本年度完工し調査報告書が完成した。また国の登録文化財に向けて2棟の建造物の悉皆調査を行い、文化庁へ諮問し令和5年3月17日に答申を受けた。

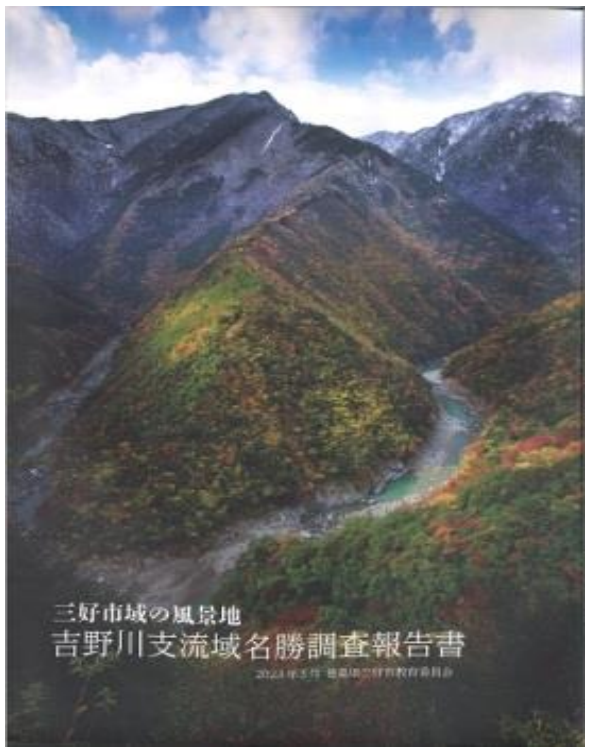
進捗状況 *※計画年次との対応*	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）
☑計画どおり進捗している □計画どおり進捗していない	市民の文化財に対する意識は、高まってきているが、まだまだ十分に調査研究（掘り起し）が出来ていないのが現状であり課題である。名勝調査事業や国の登録文化財のような市内全域をフィルードとした事業や、佐野地区のようにマップの作成にとりかかることで、地域の歴史や文化の新たな堀り起こしに繋がることから、積極的に事業を進めていく。

状況を示す写真や資料等

【歴史文化遺産の掘り起こし】
「熊谷家住宅」（上）、「旧四国銀行」（下）、国の登録文化財に向けての悉皆調査

名勝調査委員会

吉野川支流域名勝調査報告書



評価軸④-1
文化財の保存又は活用に関する事項

評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況
●文化財の保存・活用について ●文化財の修理（整備）について	□実施済 ☑実施中 □未着手

計画に記載している内容	・市内の未指定文化財の調査を行い、文化財登録制度の活用を含め、文化財保護の措置を進める。 ・指定、登録を行った文化財は保存状況を把握し、良好な保全が図られるよう保存団体等に適切な指導・助言を行う。 ・老朽化が進む建造物は、補助金制度を活用した改修事業を実施するなど、所有者に対し支援を行う。 ・市内の公開施設の整備と展示物の充実を図り、有効的な文化財の活用を進める。

定性的・定量的評価（自由記述） *※定量的評価は可能な範囲で*

●文化財の保存・活用について
・各指定文化財等の公開等を行った。（P4、P5参照）
●文化財の修理（整備）について
・各指定文化財の修理を行った。（P4、P9参照）
※上記の重要性をより知っていただき、文化財に対する意識向上を図るため「三好市文化財講座」を行った。

進捗状況 *※計画年次との対応*	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）
☑計画どおり進捗している □計画どおり進捗していない	各文化財の保存活用を実施するにあたり、協議が必要となる事案が多くの時間を要するため、人的資源不足が出てきていることが課題となっている。今後は、効率的な事業執行のため、平成31年4月1日に施行された文化財保護法改正に伴って、地域における文化財の保存及び活用を総合的かつ計画的に行うことができるよう創設された「文化財保存活用地域計画制度」による計画策定を視野に入れ、地域社会総がかりによる、文化財の保存及び活用を行う。また市単独事業として、文化財の活用及び人材育成のため「三好市文化財講座」を令和3年度より3ヵ年行う。

状況を示す写真や資料等

【三好市文化財講座】

文化財講座の様子

現地研修の様子

評価軸④-2
文化財の保存又は活用に関する事項

評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況
●文化財の保存・活用を行うための施設について ●文化財周辺の環境保全について ●文化財の普及・啓発について	□実施済 ☑実施中 □未着手

計画に記載している内容	・伝統的建造物の公開に努め、交流施設としての活用を推進する。 ・文化財及び歴史的風致の普及啓発を図るための回遊性を高める案内標識、説明板等を整備する。 ・文化財と農村集落が一体となった良好な環境の畑地や森林の保全に努める。 ・文化財に親しんでもらうためのパンフレットやマップ作成等を推進する。

定性的・定量的評価（自由記述） *※定量的評価は可能な範囲で*

●文化財の保存・活用を行うための施設について
・指定文化財、登録文化財等を公開や交流施設として活用を行った。（P5参照）
●文化財周辺の環境保全について
・重要伝統的建造物群保存地区「東祖谷山村落合」環境整備として茅刈りを行いコエグロ作りを実施し、歴史的風致保全の取り組みを行った。（P6参照）
●文化財の普及啓発について
・市内にある178件の指定及び登録文化財を多くの方々に知ってもらい、今後の保存と活用のための人材育成事業として「三好市文化財講座」3ヵ年計画を策定。（P13参照）
・市内にある名勝調査を3ヵ年行い、『吉野川支流域名勝調査報告書』を作成した。（P12参照）
・西祖谷地区において、地元小中学生に重要無形民俗文化財「西祖谷の神代踊」に関連する行事に参加していただいた。（P10参照）

進捗状況 *※計画年次との対応*	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）
☑計画どおり進捗している □計画どおり進捗していない	市内に点在する指定及び登録文化財は、平成22年度に歴史的風致維持向上計画（第1期）の認定時より、およそ60件増加し、全体で178件（指定122件・登録56件）となった。これらを今後保護及び活用するための人的資源の不足が課題。どのような保護及び活用をしていくべきか全体計画の策定が必要。そのための人材育成や普及啓発を図るため、指定文化財を活用したセミナー、ワークショップ、モニターツアーの3本を積極的に実施する。

状況を示す写真や資料等

【文化財への意識向上のための普及啓発】

文化財の保存と活用の人材育成のための三好市文化財講座の開催

歴史的風致保全のためのコエグロつくり

「西祖谷の神代踊」担い手育成への取り組み

評価軸④-3
文化財の保存又は活用に関する事項

評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況
●文化財の防災について ●埋蔵文化財の取扱いについて ●文化財行政の体制について ●各種団体の状況について	□実施済 ☑実施中 □未着手

計画に記載している内容	
	・三好市地域防災計画に基づき、消防本部、各地区消防団及び自主防災組織を連携させ、文化財等を災害から保護することを推進する。 ・包蔵地について、所在、範囲、現況を適切に把握し、関係事業課、開発事業者に埋蔵文化財の保存と保護についての啓発を推進する。 ・三好市文化財保護審議会、伝統的建造物群保存地区保存審議会を設置し保存の重要事項の審議を行い、行政部局に学芸員等専門的な職員配置を検討する。 ・担い手不足である無形の民俗文化財等保存団体に対して、組織運営補助や用具の整備支援を行い、組織の維持と担い手の育成及び基盤整備の支援を図る。

定性的・定量的評価（自由記述） *※定量的評価は可能な範囲で*

●文化財の防災について
・重要伝統的建造物群保存地区「三好市東祖谷山村落合」において防災勉強会を開催した。
●埋蔵文化財の調査について
・令和4年度は85件の開発行為（一般住宅建築等）により埋蔵文化財の所在確認が提出され、試掘が行われたが遺構・遺物は確認されなかった。
●文化財行政の体制について
・令和4年度は三好市文化財保護審議会を1回開催（令和4年4月11日）に開催し、審議を行った。
●保存・活用に関わる各種団体について
・文化遺産を活かした地域活性化事業として、組織の維持と担い手育成を図るための団体運営補助金の継続を行った。（18団体）

進捗状況 *※計画年次との対応*	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）
☑計画どおり進捗している □計画どおり進捗していない	・指定文化財等の防災設備の設置について、補助制度は設けられているが設備の設置が整っていない物件は多くある。そのため、施設の所有者に対し、早期の設備整備に向けた理解と協力を得るための継続的な働きかけが必要。 ・文化財の保存活用を進めるには、所有者や地域だけでなく、関係団体との連携も重要であるため、関連事業の情報提供や活用に向けた方策を考えるための意見交換や情報交換を継続的に行うことが必要。そのために文化財保護法改正による文化財保存活用地域計画制度の地域計画策定を視野に入れた体制構築を進める。 ・埋蔵文化財は、土地所有者をはじめ関係事業課及び関係事業者の理解を得るのに時間がかかる。埋蔵文化財は地域の歴史や文化の成り立ちがわかる歴史的財産であることを理解してもらい、関係者の協力を得るための継続的な働きかけが必要。

状況を示す写真や資料等

【重要伝統的建造物群保存地区「三好市東祖谷山村落合」】

防災勉強会の様子

進捗評価シート　　（様式1-5）

評価軸⑤-1
効果・影響等に関する報道

評価対象年度	令和4年度

報道等タイトル	年月日	掲載紙等
こいのぼり優雅に群泳	**R4.4.15**	徳島新聞
「日本茜」活用に成果	**R4.5.17**	徳島新聞
妖怪像・神社巡り得点競う	**R4.5.22**	徳島新聞

定性的・定量的評価（自由記述） *※定量的評価は可能な範囲で*

・歴史的風致エリアである大歩危小歩危地区において、大歩危峡まんなかが、今年で41回目の「こいのぼり100匹」を飾り大歩危峡の景勝地を華やかにしている。
・歴史的風致エリアである井川地区において、「井川茜保存会茜の杜」が、株の増殖や染色技術の確立に取り組み、茜染めのマスクやTシャツ等の製品化に取り組んでいる。また茜染めの体験を国の登録文化財「旧山下家別邸」（辻のいろり」で行われた。
・歴史的風致エリアである大歩危小歩危地区において、山城町の妖怪伝説や歴史文化を感じることができる「大歩危妖怪ロゲイニング」が行われた。

進捗状況 *※計画年次との対応*	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）
□計画の進捗に影響あり ☑計画の進捗に影響なし	歴史的風致維持向上計画や計画に基づく関連事業について、広く理解や協力を得るための有効手段として報道機関に対し、積極的な情報提供を行うことが必要。

状況を示す写真や資料等

【こいのぼり優雅に群泳（徳島新聞令和4年4月15日）】

R4.4.15

こいのぼり 優雅に群泳

ゴールデンウイークや端午の節句を前に各地でこいのぼりがお目見えし、観光客らを楽しませている。

今年も大歩危彩る　三好

三好市山城町の景勝地・大歩危峡で、こいのぼり約100匹が群泳している。5月末まで。

大歩危峡で遊覧船を運航する観光施設「大歩危峡まんなか」（山城町西宇）が毎年続けている名物で、41回目。施設周辺から100～120㍍先の対岸に渡したワイヤ4本にこいのぼりが連なって泳ぎ、渓谷を彩る。

川口ダム湖に80匹　那賀

那賀町大久保の川口ダム湖に80匹のこいのぼりが飾られた。5月上旬まで。

地元の若手林業グループ「山武者」が飾り付けた。メンバー10人が両岸にワイヤロープを掛けて、長さ3・5～12㍍の色鮮やかなこいのぼりを2㍍間隔で取り付けた。

樫谷将志代表（42）＝延野、林業＝は「新型コロナウイルスの影響で閉塞感が漂っているが、少しでもに

走る列車の車窓から眺められる。まんなかの大平克之会長（67）は「新型コロナウイルス下の世の中が元気になってほしい」と話した。（若武）

施設の駐車場や土讓線を

っている。

【上】大歩危峡を泳ぐこいのぼり＝三好市山城町
【下】悠々と泳ぐこいのぼり＝那賀町大久保

【「日本茜」活用に成果（徳島新聞令和4年5月17日）】

井川の保存会発足1年余

R4.5.17

「日本茜」活用に成果

三好市井川町の住民らが、古くから草木染の赤の染料に使われてきた「アカネ」の在来種を活用した地域活性化を目指し、「井川茜保存会茜の杜」を立ち上げて1年余りとなった。株の増殖や染色技術の確立に取り組み、茜染めのマスクを製品化するなど成果が出始めた。栽培する株の数や製品の種類をさらに増やす計画だ。

茜の杜は、井川町の山や県立農林水産総合技術開部などに在来種「日本茜」が自生しているのに着目した住民ら52人が昨年3月に結成した。1年目は住民を交えたワークショップを10回以上開催し、自生株を保護しつつ、数を増やして持続的に使うための栽培法や、自生株とは色の出方が異なる栽培株の染色技術確立に努めた。

株の増殖に向けては、昨年6月から町内の耕作放棄地で栽培を始めた。挿し芽や株分けで計70株余りを育て、今年2月に約100株を収穫した。日本茜の栽培に関する詳しい研究事例がないため、県西部総合県民局は、普及使いやすい茜の株や、井川町の山や県立農林水産総合技術開部などに在来種「日本茜」が自生しているのに着目した住民ら52人が昨年3月に結成した。1年目は住民を交えたワークショップを10回以上開催し、自生株を保護しつつ、数を増やして持続的に使うための栽培法や、自生株とは色の出方が異なる栽培株の染色技術確立に努めた。

株の増殖に向けては、昨年6月から町内の耕作放棄地で栽培を始めた。挿し芽や株分けで計70株余りを育て、今年2月に約100株を収穫した。日本茜の栽培に関する詳しい研究事例がないため、県西部総合県民局は、普及

染色技術確立目指す

マスク製品化　ふるさと返礼品に

染色技術の面では、一定の色を出せるよう試行錯誤を重ねて、オレンジとピンクに染めた絹のスカーフやウールのスカーフと綿のマスクを製品化。

昨年11月に開いた京都の西陣織工芸士らとの合同作品展で販売したほか、12月には市のふるさと納税返礼品にマスクとスカールが登録された。

2年目の活動ではこうした取り組みを拡大。株数をさらに500増やし、効率的な栽培法の研究を進める。綿のTシャツやウールのスカーフなど、新しい製品を開発するほか、指導で綿のハンカチを染め始めた。前川順子会長（76）の市文化祭への出展、藍の確立し、地域の新たな支化や商品として育てい

4月24日には茜染めの体験会を井川町辻の交流施設「辻のいろり」で開催。住民ら9人が参加の

きたい」と述べ、茜の魅力を伝えようと意気込んでいた。（若武）

アカネでハンカチを染める参加者ら＝三好市井川町の交流施設「辻のいろり」

【妖怪像・神社巡り得点競う（徳島新聞令和4年5月22日）】

妖怪像・神社巡り得点競う

三好で「ロゲイニング」R4.5.22

観光名所や山野に設けられたチェックポイントを制限時間内に回って得点を競うイベント「大歩危妖怪ロゲイニング」が、三好市山城町の大歩危峡周辺であった。県内外の59人が個人とチームで参加し、妖怪伝説が残る地区の自然や文化を楽しんだ。

チェックポイントの妖怪「ヒダルガミ」モニュメント前で記録写真を撮る参加者＝三好市山城町上名

山城町上名の「道の駅大歩危」を発着点に、制限時間4時間と2時間の2クラスで実施。参加者は地図に記された妖怪の像や神社など35カ所のチェックポイントで記録写真を撮り、それぞれの場所に設定された得点の獲得合計を競った。

4時間クラスに挑んだ徳島市上助任町三本松の会社員井原路子さん（55）は「地域の歴史や文化を感じながら楽しめるコースだった」と満喫していた。

アウトドアスポーツ企画運営会社の人力企画（美波町）が主催し、15日に開いた。（若武）

進捗評価シート　　（様式1-5）

評価軸⑤-2
効果・影響等に関する報道

評価対象年度	令和4年度

報道等タイトル	年月日	掲載紙等
三縄小に環境大臣表彰	**R4.6.8**	徳島新聞
カズラ立派に育って	**R4.7.8**	徳島新聞
雨乞いの舞 優雅に	**R4.7.24**	徳島新聞
傾斜地農業の伝統農具調査	**R4.7.26**	徳島新聞

定性的・定量的評価（自由記述） *※定量的評価は可能な範囲で*

・歴史的風致エリアである池田地区にある黒沢湿原において、2000年から続けている三縄小学校の児童による、市の花・サギソウの保護活動が評価された。
・歴史的風致エリアである祖谷地区を代表する重要有形民俗文化財「祖谷のかずら橋」で使用されるシラクチカズラの植樹活動が行われた。
・歴史的風致エリアである祖谷地区において、重要無形民俗文化財「西祖谷の神代踊」が3年ぶりに奉納された。
・歴史的風致エリアである祖谷地区において、池田高校の学生による傾斜地農業で使用される農具の研究が行われた。

進捗状況 *※計画年次との対応*	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）
□計画の進捗に影響あり ☑計画の進捗に影響なし	歴史的風致維持向上計画や計画に基づく関連事業について、広く理解や協力を得るための有効手段として報道機関に対し、積極的な情報提供を行うことが必要。

状況を示す写真や資料等

【三縄小に環境大臣表彰（徳島新聞令和4年6月8日）】

R4.6.8
黒沢湿原でサギソウ保護活動
三縄小に環境大臣表彰
2000年から球根育成・苗植え

三好市池田町の三縄小学校が、本年度の「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰の保全活動部門に選ばれた。黒沢湿原（同町漆川）で2000年から続けている市の花・サギソウの保護活動が評価された。

三縄小では毎年3月にサギソウの球根から栽培を始め、育った苗を6月、黒沢湿原中央部のサギソウ園（約300平方㍍）に植えている。球根は00年から同渡池田ライオンズクラブが提供している。

今年は3、4年生12人とライオンズクラブの会員10人が2日に湿原を訪れ、5㌢ほどに伸びた苗約500株を1本ずつ植えた。3年の手倉夢乃さん(8)は「自分が植えた場所をちゃんと覚えた。花が咲くのが楽しみ」、4年の森下大輝君(9)は「球根の世話を頑張ったので、きれいに咲いてほしいと笑みを浮かべた。

サギソウは1980年代半ばまでは環境の変化と乱獲で群生地が減っていた。そこで地元住民が保護活動を始め、漆川小児童も苗の植え付けに参加するようになった。1998年に同校が休校となり、99年から出合小（2005年休校）が活動を引き継いだ。00年から川崎小（15年休校）と三縄小が加わり、21年度から馬路小も参加している。現在、保護活動をしているのは三縄小と馬路小だけで、馬路小の3～6年生5人は今月6日に苗を植えた。

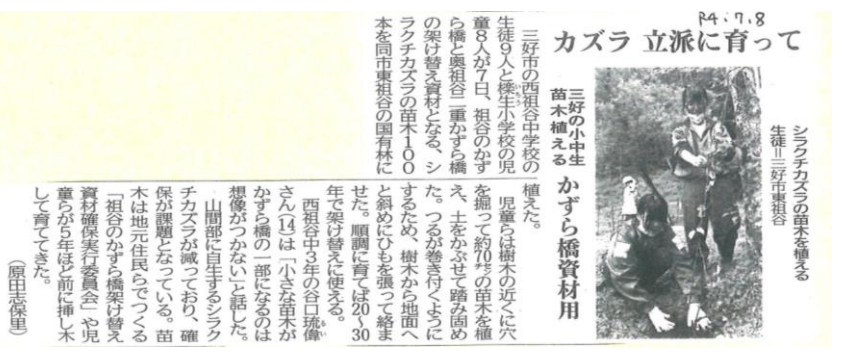
三縄小の岩佐辰也校長(58)は「保全活動を通じて地域を大切に思う気持ちを育てたい。子どもたちには、貴重な自然環境が身近にあることを誇りに思ってほしい」と語った。

環境大臣表彰は5部門あり、保全活動部門は同校を含む12団体・個人が選ばれた。

（原田志保里）

【上】黒沢湿原に群生するサギソウ＝2021年8月、三好市池田町漆川
【下】サギソウの苗を植える三縄小児童＝今月2日、黒沢湿原

【カズラ立派に育って（徳島新聞令和4年7月8日）】



R4.7.8
カズラ 立派に育って

三好の小中生 苗木植える
かずら橋資材用

シラクチカズラの苗木を植える生徒＝三好市東祖谷

三好市の西祖谷中学校の生徒9人と樵生小学校の児童8人が7日、祖谷のかずら橋と奥祖谷一重かずら橋の架け替え資材となる、シラクチカズラの苗木100本を同市東祖谷の国有林に植えた。

児童らは樹木の近くに穴を掘って約70㌢の苗木を植え、土をかぶせて踏み固めた。つるが巻き付くようにするため、樹木から地面へと斜めにひもを張って絡ませた。順調に育てば20～30年で架け替えに使える。

西祖谷中3年の谷口琉偉さん(14)は「小さな苗木がかずら橋の一部になるのは想像がつかない」と話した。

山間部に自生するシラクチカズラが減っており、確保が課題となっている。苗木は地元住民らでつくる「祖谷のかずら橋架け替え資材確保実行委員会」や児童らが年ほど前に挿し木して育ててきた。

（原田志保里）

【傾斜地農業の伝統農具調査（徳島新聞令和4年7月26日）】

池田高校（三好市）探究科の3年生5人による世界農業遺産「にし阿波の傾斜地農耕システム」に関する研究が、徳島大の学術誌に掲載される見通しとなった。同市東祖谷・久保集落で農業を営む全戸で、傾斜地での農業に使う伝統農具を調査。同じ種類の農具でも各戸で長さや重さが異なるほか、所有する農具に地域差があると分かった。農家の体格や土質に合わせて作り、使用していると考えられる。その土地に伝わる農具の調査は傾斜地農業を守る上で貴重な資料となる。

R4.7.26
傾斜地農業の伝統農具調査
池高生研究 徳大学術誌に

「探究科世界農業遺産研究班」の（前列左から）田野さん、峯本さん、赤池さん、（後列左から）坪根さん、川人さん＝三好市池田町の池田高校

調査したのは「探究科世界農業遺産研究班」の川人さん(17)、坪根生京さん(17)、赤池真心さん(17)、峯本真由子さん(17)。1年生の頃から徳島大の内藤直樹准教授(48)の指導で農具調査や農家への聞き取りを行い、県西部の傾斜畑では古くから先のとがった独自の農具が使われてきたことなどを調べた。

昨年10、11月には東祖谷久保の21戸で調査。傾斜で落ちた土を上に戻す「ツチアゲ」作業に使う「サラエ」農具が東祖谷に18丁あったのに対し、つるぎは73丁だった。堆肥生産に使う「フタツゴ」などは東祖谷が1丁、つるぎは14丁と、所有する農具に顕著な地域差があるのも分かった。

これらの結果から、農家の体格に合わせた農具が使われ、東祖谷は堆肥生産、つるぎでは除草作業に重きを置いていたと考えられる。農家や耕作地の特質に応じて農具を作り、使用している可能性が示された。

内藤准教授は「全戸に調査し、特定の地域における農具の特徴については正確な情報と言える」と評価。「その土地の事情に合わせて作られた伝統農具の知恵を学び、生かしていくのは、傾斜地農業を守る上で重要だ」とした。論文の体裁に整え、秋ごろに徳島大の紀要論文集「地域科学研究」に掲載される見通し。

研究班リーダーの川人さんは「土地や技術を守り続けてきた人の思いに触れることができた」と話した。

（原田志保里）

東祖谷で実態詳しく 秋ごろ掲載へ

土をかき上げる作業に使う農具の「サラエ」（池田高提供）

農具の長さや重さを測定した時期や方法、修理方法をはじめ、使用者を持ち主から聞き取って1戸ごとに表にまとめた。同じ種類の農具の形状を比べて、用途が同じでも長さや重さにばらつきがあると判明した。

内藤准教授の研究室が2019年につるぎ町の集落で実施した同様の調査内容とも比較。「ミツクマデ」「クマデ」など除草に使う農具が東祖谷に18丁あったのに対し、つるぎは73丁だった。堆肥生産に使う「フタツゴ」などは東祖谷が1丁、つるぎは14丁と、所有する農具に顕著な地域差があるのも分かった。

これらの結果から、農家の体格に合わせた農具が使われ、東祖谷は堆肥生産、つるぎでは除草作業に重きを置いていたと考えられる。農家や耕作地の特質に応じて農具を作り、使用している可能性が示された。

内藤准教授は「全戸に調査し、特定の地域における農具の特徴については正確な情報と言える」と評価。「その土地の事情に合わせて作られた伝統農具の知恵を学び、生かしていくのは、傾斜地農業を守る上で重要だ」とした。論文の体裁に整え、秋ごろに徳島大の紀要論文集「地域科学研究」に掲載される見通し。

研究班リーダーの川人さんは「土地や技術を守り続けてきた人の思いに触れることができた」と話した。

（原田志保里）

【雨乞いの舞 優雅に（徳島新聞　令和4年7月24日）】

R4.7.24
雨乞いの舞 優雅に
西祖谷 神代踊り 3年ぶり奉納

三好市西祖谷山村善徳の天満神社で23日、国指定重要無形民俗文化財の神代踊りが3年ぶりに奉納された。地元の樵生小学校の児童も参加し、伝統の雨乞いの舞を披露した。

善徳神代踊り保存会の会員19人と児童11人が、お面や花がさなどの衣装を着けて境内に輪を作った。ほら貝の合図で太鼓とかねが独特のリズムを刻むと、踊り手はなぎなたや棒を振るって飛び跳ねたり、扇子を手に優雅に舞ったりした。多くの写真愛好家が訪れ、盛んにシャッターを切った。

神代踊りは9世紀末に菅原道真が行った雨乞いの踊りが起源とされる。地区の子どもが減り踊り手が不足する中、樵生小では5年前から児童が保存会員に踊りを習っている。

6年の森脇大寿君(12)は「たくさんの人の前で踊るのは久しぶりで緊張した」。保存会の小野寺武夫会長(62)は「子どもや市民に協力してもらい、伝統の踊りを継承していきたい」と話した。

（原田志保里）

神代踊りを奉納する樵生小児童ら＝三好市西祖谷山村善徳の天満神社

進捗評価シート　　（様式1-5）

評価軸⑤-3
効果・影響等に関する報道

評価対象年度	令和4年度

報道等タイトル	年月日	掲載紙等
西祖谷・神代踊りなど無形遺産へ	R4.11.2	徳島新聞
歴史的景観維持へ自治体の事業紹介 三好で協議会総会	R4.11.2	徳島新聞
雑穀 もっと楽しんで	R4.11.15	徳島新聞

定性的・定量的評価（自由記述） *※定量的評価は可能な範囲で*

・「風流踊」の一つに構成されている歴史的風致エリアの祖谷地区にある、重要無形民俗文化財「西祖谷の神代踊」が、ユネスコの無形文化遺産に登録勧告を受けた。
・歴史的景観都市協議会総会が3年ぶりに開催され、49都市76名が参加し歴史的景観維持等に取り組む事業や、成果について発表し町並み景観維持の理解を深めた。
・歴史的風致エリアである祖谷地区において、祖谷雑穀生産組合が、地元の特産品を集めた「奥祖谷マルシェ」が行われた。

進捗状況 *※計画年次との対応*	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）
□計画の進捗に影響あり ☑計画の進捗に影響なし	歴史的風致維持向上計画や計画に基づく関連事業について、広く理解や協力を得るための有効手段として報道機関に対し、積極的な情報提供を行うことが必要。

状況を示す写真や資料等

【西祖谷・神代踊りなど無形遺産へ（徳島新聞令和4年11月2日）】

西祖谷・神代踊りなど無形遺産へ

R4.11.2

「関心高まる契機に」

関係者から期待の声

神代踊りは、毎年旧暦の6月25日に同市西祖谷山村善徳の天満神社で、地元住民らでつくる善徳神代踊り保存会が奉納。てんぐや獅子、花がさなどの衣装を身に着けた住民らが境内に大きな輪を作って踊る。太鼓とかねが独特のリズムを刻み、男性はなぎなたや棒を振るって飛び跳ね、女性は扇子を手に優雅に舞う。

国の重要無形民俗文化財に指定された1976年、踊りを後世に引き継ごうと地元住民らが保存会を結成。現在の会員は約25人で発足当初から半減した。休校などで善徳地区の子どもが減って踊り手が不足する中、2017年からは地元の榛生小学校の児童に踊りを教え、保存に取り組んでいる。

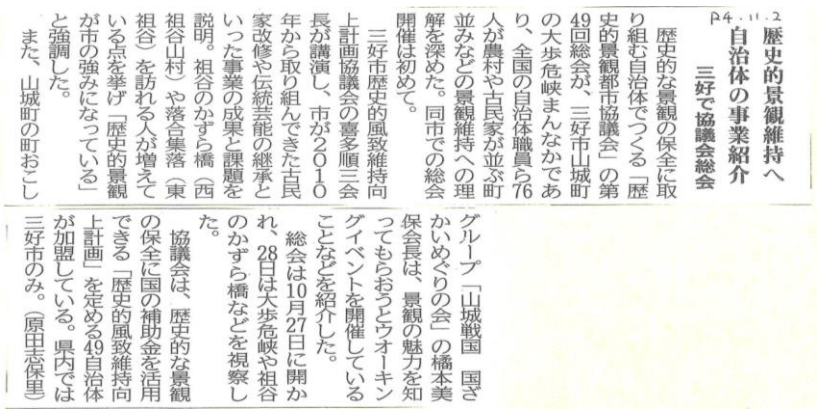
小野寺武夫会長(62)は「人口減少で継承活動は厳しさを増している。登録を機に地元の人以外でも興味や関心を持つ人が増え、みんなで伝統を守っていく機運が高まればありがたい」と話した。（若武）

（1面参照）

豊作祈願や厄払いの踊り「風流踊」が、ユネスコの無形文化遺産に登録勧告されたことを受け、構成の一つに盛り込まれている三好市西祖谷山村の「西祖谷の神代踊り」の関係者は「過疎が進む地域の踊りに関心が高まる契機になればいい」と期待した。

西祖谷の神代踊りを奉納する子どもら
＝7月23日、三好市西祖谷山村

【歴史的景観維持へ自治体の事業紹介 三好で協議会総会（徳島新聞令和4年11月2日）】



R4.11.2

歴史的景観維持へ 自治体の事業紹介

三好で協議会総会

歴史的な景観の保全に取り組む自治体でつくる「歴史的景観都市協議会」の第49回総会が、三好市山城町の大歩危峡まんなかであり、全国の自治体職員ら76人が農村や古民家が並ぶ町並みなどの景観維持への理解を深めた。同市での総会開催は初めて。

三好市歴史的風致維持向上計画協議会の喜多順三会長が講演し、市が2010年から取り組んできた古民家改修や伝統芸能の継承といった事業の成果と課題を説明。祖谷のかずら橋（西祖谷山村）や落合集落（東祖谷）を訪れる人が増えている点を挙げ「歴史的景観が市の強みになっている」と強調した。

また、山城町の町おこしグループ「山城戦国 国ざかいめぐりの会」の橋本美保会長は、景観の魅力を知ってもらおうとウオーキングイベントを開催していることなどを紹介した。

総会は10月27日に開かれ、28日は大歩危峡や祖谷のかずら橋などを視察した。

協議会は、歴史的な景観の保全に国の補助金を活用できる「歴史的風致維持向上計画」を定める49自治体が加盟している。県内では三好市のみ。（原田志保里）

【雑穀　もっと楽しんで（徳島新聞令和4年11月15日）】

R4.11.15

雑穀 もっと親しんで

三好 菓子や手作り雑貨並ぶ

三好市の急傾斜地で雑穀栽培に取り組む住民グループ「祖谷雑穀生産組合」が、地元の特産品を集めた「奥祖谷マルシェ」を同市東祖谷京上の歴史民俗資料館で開いた。

資料館前のスペースに、雑穀のヤツマタ（シコクビエ）を使ったクッキーやパンケーキのほか、祖谷特産のゴウシュイモとコンニャク、アメゴをみそと一緒に焼いた郷土料理「ひら焼き」の販売ブースが並び、家族連れらが味わっていた。東祖谷小中学校の児童生徒も出店し、ソバの花の押し花などで作ったキーホルダーやマグネットを販売した。

マルシェは組合が地域を盛り上げようと企画し、４回目となる今年は５日に開いた。杉平美和組合長(64)は「この機会に雑穀や郷土料理を口にしてもらい、魅力を知ってほしい」と期待した。（原田志保里）

手作りのキーホルダーを販売する児童
＝三好市東祖谷京上の東祖谷歴史民俗資料館

進捗評価シート　　（様式1-5）

評価軸⑤-4
効果・影響等に関する報道

評価対象年度	令和4年度

報道等タイトル	年月日	掲載紙等
神代踊りの花がさ作り　西祖谷中生9人が体験	**R4.11.20**	徳島新聞
化け猫 行列楽しく 三好市山城でまつり	**R4.11.20**	徳島新聞

定性的・定量的評価（自由記述） *※定量的評価は可能な範囲で*

・歴史的風致エリアである祖谷地区において、重要無形民俗文化財「西祖谷の神代踊」で使用される花笠つくりを地元の西祖谷中学生9人が体験した。
・歴史的風致エリアである大歩危小歩危地区において、語り継がれているタヌキ伝説にちなんで「やましろ狸まつり」が行われた。

進捗状況　*※計画年次との対応*	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）
□計画の進捗に影響あり ☑計画の進捗に影響なし	歴史的風致維持向上計画や計画に基づく関連事業について、広く理解や協力を得るための有効手段として報道機関に対し、積極的な情報提供を行うことが必要。

状況を示す写真や資料等

【神代踊りの花がさ作り　西祖谷中生9人が体験（徳島新聞　令和4年11月20日）】

R4.11.20

神代踊りの花がさ作り

西祖谷中生９人が体験

保存会の会員（手前右）に教わり、かさを作る生徒＝三好市西祖谷山村の市社協西祖谷支所

三好市の西祖谷中学校の生徒9人が、同市西祖谷山村一宇の市社会福祉協議会西祖谷支所を訪れ、国指定重要無形民俗文化財「西祖谷の神代踊り」で女性の踊り手が身に着ける花がさ作りを体験した。地域の伝統文化を学ぶ授業の一環。神代踊り保存会の会員から作業を教わった。

生徒は円すい状の竹枠に障子紙を貼り、短冊状に切った黄や紫、緑の色和紙で飾り付けた。赤と白の紙で花を作ってツバキの枝に結び、かさの先端部に取り付けた。2年の平岡美優さん(14)は「踊りに毎年参加しているけど、花がさを作ったのは初めて。来年からは衣装作りにも参加したい」と笑顔だった。

踊りは毎年旧暦の6月25日に西祖谷山村の善徳天満宮で奉納される。かさは例年、踊りの奉納前に保存会の会員が作っている。

生徒は今月17日に、かさ作りを体験。小野寺武夫会長(62)は「子どもたちがこれからも手伝ってくれるとありがたい」と語った。

神代踊りを含む24都府県41件の風流踊は1日、国連教育科学文化機関（ユネスコ）の無形文化遺産に登録勧告された。近く正式決定する見通し。（原田志保里）

【化け猫 行列楽しく三好市山城でまつり（徳島新聞　令和4年11月20日）】

化け狸 行列楽しく

三好市山城でまつり

R4.11.20

タヌキに変装して商店街を練り歩く参加者＝三好市山城町

三好市山城町のタヌキ伝説にちなんだ「第6回やましろ狸（たぬき）まつり」（実行委主催）が19日、同町大川持の川口商店街周辺であり、家族連れらでにぎわった。

住民らが、女性を背負った「おんぶ女狸」やうどんをすする「うどん狸」、汽車に化けた「汽車狸」など個性的な約15種類のタヌキに変装。阿波川口駅から市役所山城支所までの約500メートルを練り歩いた。タヌキ伝説の紙芝居やふすま絵の展示、地元の飲食店など約30店が並んだ「タヌキマルシェ」、ステージイベントもあった。

同町茂地の会社員茂地健敏さん(41)は「子どもと一緒に楽しめて良かった」。長男の優希君(8)＝山城小2年＝は「女性をおんぶしているタヌキが一番すごかった」と喜んだ。

まつりは地域に残るタヌキ伝説を町おこしにつなげようと、2015年から催している。今年は新型コロナウイルスの影響で3年ぶりに開いた。

（原田志保里）

進捗評価シート　　（様式1-5）

評価軸⑤-5
効果・影響等に関する報道

評価対象年度	令和4年度

報道等タイトル	年月日	掲載紙等
池田高探求科3年5人　方言班が優秀賞	**R4.12.27**	徳島新聞
旧四国銀行辻支店など県内4件も文化財に	**R5.5.18**	徳島新聞

定性的・定量的評価（自由記述） *※定量的評価は可能な範囲で*

・歴史的風致エリアである祖谷地区において、池田高校の学生5名が西祖谷山村で方言調査を行い、日本語研究コンテストで優秀賞に輝いた。
・歴史的風致エリアである井川地区において、4件の歴史的建造物が国の登録文化財の答申を受けた。

進捗状況　*※計画年次との対応*	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）
□計画の進捗に影響あり ☑計画の進捗に影響なし	歴史的風致維持向上計画や計画に基づく関連事業について、広く理解や協力を得るための有効手段として報道機関に対し、積極的な情報提供を行うことが必要。

状況を示す写真や資料等

【池田高探求科3年5人　方言班が優秀賞（徳島新聞　令和4年12月27日）】

池田高校（三好市）探究科で方言を研究している3年生5人が、第1回中高生日本語研究コンテスト（日本語学会主催）のリサーチ部門で、第2席に当たる優秀賞に輝いた。同市西祖谷山村の方言と古典文法との関係性について、現地で聞き取り調査を重ねて分析した結果を発表した。古語の残存や、世代によって異なる使い方があると明らかにした点などが評価された。

R4.12.27

中高生日本語研究コンテスト・リサーチ部門

池田高探究科3年5人

方言班が優秀賞

古典文法との関係性　西祖谷で調査

受賞したのは西村善さん（18）、岡七美さん（18）、内山由惟さん（18）、北原悠希さん（18）、保元麻衣さん（17）。研究グループ「方言班」として古典を学ぶ中、地元の方言に、古語で不可能を表す表現の「え：ず（とても：できない）」や否定過去の「ざった」と同様の使い方があると知り、実態を調べた。

調査は2020年10月～21年12月、西祖谷山村今久保と有瀬の両集落を計5回訪問して実施。61～90歳の男女計14人に「知らない漢字なので読めない」「昨日、仕事に行かなかった」といった例文を示し、どう話すのか対面で尋ねた。

回答に「え：ず」の用法はなかったが、「えよまん（読めない・75歳女性）」など「え」は残ったまま「ず」が「ん」に変わった使い方があった。61歳女性は「よめん」と話し、使用法に世代差があった。「ざった」では、68、86歳の男女4人が「よめざった（読めなかった）」「いかざった（行かなかった）」と回答した。

調査結果から、高年層を中心に「え：ず」が変化した表現が残る一方、中年層以下は古い表現が新しい言葉に少しずつ置き換わっていると分析。祖谷地方には古語に由来する言葉が多く残っており、「地域の方言を知り、残すことが伝統文化の継承につながる」と指摘した。

岡さんは「方言を残すには興味を持ってもらうのが一番大切。自分たちの研究も参考にして後輩らに生かしてほしい」と語った。

コンテストは、言語や言語文化への探究心を育むことなどを目的に本年度から始まった。研究発表を収めた動画を9月に寄り、アイデアとリサーチの2部門に全国から67件の投稿があった。このうちリサーチは23件で、調査研究の方法などの観点から審査。最優秀賞1件、池田高を含む優秀賞4件、奨励賞1件を選んだ。（若武）

【右】住民に聞き取りをする生徒＝昨年12月、三好市西祖谷山村（池田高提供）
【左】リサーチ部門の優秀賞に輝いた池田高探究科3年の（後列左端から時計回りに）西村さん、保元さん、内山さん、北原さん、岡さん＝三好市池田町の同校

【旧四国銀行辻支店など県内4件も文化財に（徳島新聞　令和5年3月18日）】

（33）徳島総合　2023年（令和5年）3月18日　土曜日　徳島

文化審答申

旧四国銀行辻支店など

県内4件も文化財に

国の文化審議会が17日に行った永岡桂子文部科学相への答申では、三好市井川町辻の旧四国銀行辻支店や旧熊谷家住宅主屋など2カ所4件を、国の登録文化財にするよう求めた。一連の建物から、たばこの生産・加工が盛んだった辻地区の発展が確認できると評価された。県内の国登録有形文化財（建造物）は92カ所2件となる。（2面参照）

旧四国銀行辻支店は、1959（昭和34）年に建てられた鉄筋コンクリート造りの2階建て（149平方㍍）。長方形の石を積み上げたように見える「目地切り石張風仕上げ」で、県西部でのコンクリート建築物の先駆けとなった。たばこの加工などで栄え金融取引も活発だったため、支店は78年まで営業していた。支店に隣接し、バイクを駐車していた木造平屋の車庫（11平方㍍）も登録が答申された。

旧熊谷家住宅主屋は木造3階建て（732平方㍍）で、屋根は山形の切り妻造り。たばこ関連の事業で財を成したとみられる内田多賀蔵が1870（明治3）年に建て、10年後に3階部分を増築した。欄間に豪華な彫刻が施されており商売の隆盛を伝える。1946年に乾物商だった熊谷家が買い取り、店舗兼住宅として使用していた。

熊谷家が乾物を保管するため、63年に建設した木造2階建ての倉庫（29平方㍍）も、主屋と一体となって歴史的景観を形成しているとして登録される。（乾栄里子）

国の有形文化財に登録される【上】旧四国銀行辻支店【下】旧熊谷家住宅主屋＝いずれも三好市井川町辻（三好市教委提供）

評価軸⑥-1
その他（効果等）

項目

観光入込客数の推移

計画に記載している内容

定性的・定量的評価（自由記述）　*※定量的評価は可能な範囲で。記事・議会議事録等を添付*

・三好市歴史的風致維持向上計画【第1期】平成22年11月から平成30年3月31日・【第2期】平成31年4月1日～令和10年3月31日
・観光入込客数の推移として令和4年度は昨年度と同様にコロナ禍であったが、制限の緩和等により、各観光文化財施設の来訪者数は若干回復したが、コロナ前の令和元年度の入込数には戻っていない。

進捗状況　*※計画年次との対応*	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）
□計画の進捗に影響あり ☑計画の進捗に影響なし	下記の入込客数データは、祖谷地区にある主要観光文化財施設である。情報発信等も同様に行われており、総合案内パンフレットも充実しているが、入込客数の増減に差が大きく生じていることが課題である。単純に各施設の情報発信不足としては考えにくい。祖谷地区にくる観光客は「祖谷の蔓橋」も目的に来る方が大半を占めていることが下記データからわかる。ここからの観光客の動向調査を関係機関と連携して行い、原因を追究していく必要がある。

【主要観光文化財施設入込客数】

	Ｈ２３	Ｈ２４	Ｈ２５	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０	R1	R2	R3	R4	備　考
祖谷の蔓橋	303,189	331,634	327,562	301,193	348,528	339,035	357,697	360,601	360,790	161,370	173,170	263,023	
内外国人観光客数	4,318	8,541	14,293	20,719	32,010	42,308	53,075	54,194	61,446	7,827	1,472	8,658	
落合古民家宿泊者数	750	903	1,086	1,454	2,320	2,764	2,964	2,763	2,529	2,110	1,786	1,650	H26に8棟完工
長岡家住宅	30	1,063	862	1,280	1,989	1,735	2,824	3,346	2,824	926	750	1,093	H23.2月末に完工
阿佐家住宅	―	―	―	―	―	―	1,388	993	885	613	413	582	H29より公開
東祖谷歴史民俗資料館	1,810	4,004	1,988	2,103	2,026	1,873	1,788	1,609	1,552	878	750	1,128	H24 大河ﾄﾞﾗﾏ「平清盛」
合　　計	305,779	337,604	331,498	306,030	354,863	345,407	365,273	368,319	367,695	173,724	178,341	276,134	

法定協議会等におけるコメント

（様式2）

評価対象年度	令和3年度

・法定協議会等におけるコメント

コメントが出された会議等の名称：令和4年度三好市歴史的風致維持向上計画協議会

会議等の開催日時：令和5年5月12日（金）

（コメントの概要）
●令和4年度の進捗評価及び総括評価に対する各委員からの主な意見
【組織体制】
・協議会への担当部署の職員の参加が見られなくなっています。 一緒に現場を見ることで、課題や問題意識の共有を図るべきではないでしょうか。
・事業推進にあたっての課題等を、関係各機関と共有し、意見交換することで、より実効性のある取組を実行できていると感じております。
【重点区域における良好な景観を形成する施策】
・個人所有の空き家で朽ちている家がところどころ見受けられるがそれはどうにかできないのか？かなり景観的にマイナスの印象を受ける。
・良好な景観形成のための施策・取組は、その内容・結果において、県内全市町村の中で先頭を走っており、堂々と全国に紹介できる事例であると常々感じております。現在の素晴らしい景観がどのような過程や努力を経て形成されたのか、という点も含め、広報していただければ、その「財産」を次代に受け継いでいこうという意識が、人々の中でより醸成されていくのではないかと考えております。
・ゾーンⅡの地域では、景観を形成する建物が、ここ数年で空き家が増え、また解体で空き地化が少しずつ増加していることなど、気になる状況です。
・計画協議会以外に、「関係者への周知徹底を図る」ための連絡調整会議・組織（県の埋文と開発部局の連絡調整会議のような）の設置が必要。
【歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項】
・かずら橋の架け替えや茅葺屋根の葺き替え、石積みなどの技術は一度途絶えると再生が困難なものだと思います。次世代への技術継承には積極的に取組んでください。
また、整備した歴史的風致維持向上施設については、積極的な活用を図ってもらいたいと思います。
・東祖谷の社叢については行政の的な介入が必要だと思います。維持そして守る人がいなくなるので心配しています。
・伝統的工法の継承は案外いつの間にかなくなっていることが多いように思います。その仕事がある状況をなるだけ作りだしそれを勉強や学習の場として積極的に捉える動きが必要だと思います。
・地域の踊りが地域で難しい状況になってきていると思います。伝統の形をそのまま受け継ぐのは相当に難しいと思います。このような伝統的行事を一括して受け継ぐような団体を行政として作っていったり養成するというのはどうでしょうか。
・スマホなどを使い文化財の個別の情報を見やすくして現地訪問ができるようにして市民に親しまれた文化財を多くしていく過程で文化財マイスターなどの養成も行う。何より市民に宝だと思われることが必要だと思います。
・真鍋家は、たばこ資料館や離れの座敷も見学でき、イベントでの利用もできることで、建物の維持管理にもなり、とてもいい場所だと思います。辻のいろりは、交流スペースとしてもっと多くの方に利用してもらいたいです。そのためにも2階の活用計画をぜひ進めて頂きたいです。かずら橋の架け替えや茅葺屋根の葺き替えでの資材確保はほんとに大変だと思います。地元の子供たちのシラクチカズラの苗木植樹、茅刈コエグロの体験は、これからもできる限り続けていってほしいです。西祖谷の神代踊りも踊りだけでなく花笠作りの体験があり、また急傾斜工法体験など、地道な活動ですが子供たちがまた次の世代へとつなげてくれることを願ってできることをやっていけたらと思います。歴史文化遺産の掘り起こしとして佐野地区や辻まちの新しい登録文化財、吉野川流域の名勝調査などまだまだ発見があり、私たちもそれに取組んでいきたいと思います。
・ソフト（伝統行事や傾斜地農業の継承支援等）・ハード（各種整備・保存修理事業等）の両面において、積極的に維持・継承に取り組まれていると感じております。
・佐野地区や辻地区にはとても魅力ある歴史文化や建築物があるが、活用があまりされていないと思う。地域住民も高齢化でなかなか活動するにも厳しい現状があるのだろうが、なにかお役に立つことができれば、私も協力していきたいと思う。
【文化財の保存又は活用に関する事項】
・今「三好ジオ暮らし方カレッジ」というプロジェクトの計画が進んでいる。こちらのカリキュラムと重なる部分があるので、協同して出来ればいいのではと思った。
・文化財の保存・活用には、費用はもちろんのこと、人的資源も必要になってきます。現在、文化財に関わる方は高齢者が多く、10年後、20年後を考えたときに、現在の体制を維持するのは困難だと思われます。有形・無形の文化財を十分に活用しながら若年層への普及・啓発を推進するとともに、文化財活用の議論の場に参画してもらうなど、積極的に関わってもらうための仕掛けをさらに増やすことができればと考えております
・落合地区のみなさんの山村集落での防災への取組みは、他の地域でも参考になると思います。
・阿佐家住宅の公有化にともなう、公開・活用の方途を考える必要あり。
・防災は結構難しい。できるところからやるのは必要。
・文化財等への理解者や担い手の育成は歴史を活かしたまちづくりには欠かせないものです。よりすそ野が広がるような取り組みを期待しています。
【効果・影響等に関する報道】
・あかね作りと方言研修傾斜地農業研究などいろいろな報道で多くの方に知られるのはいいことだ引き続き、新聞等のメディアを活用した情報提供に努めてください。
・これまで取り組んできたことが様々な媒体で報道されており、それらを目にした人々が三好市を訪れた、という話もよく耳にするようになりました。ツイッターなどのSNSにおいても東祖谷を訪れた若年層の投稿も見かけるようになりました。次代を担う若い世代の呼び込みについては、テレビ・新聞等の従来のメディア（若者はあまり見ない）よりもSNSの方がより効果的かもしれません。多数の写真映えする魅力的な文化財や景観をアピールして、さらなる誘引を図れればと考えております。
・神代踊りを含む風流踊りが世界遺産へ登録されたのはとても良いニュースでめでたいなと思った。しかし西祖谷の過疎化は止まらない状況で今後も続けられるのかなという不安はある。
日本酒は旧山下邸別邸を活動拠点の一拠点としており、私も藍染めのワークショップを体験した。すぐ裏の広場に出られるので、水をたくさん使う藍染めに適した場所だと思った。今後も利用し続けてほしい。
【その他（効果等）】
・東祖谷への入込客数をいかに増やしていくかというのは本当に難しい課題だと感じております。西祖谷の宿泊施設に比べると東祖谷の宿泊施設は伝統的な建物を生かしたものが多く、東祖谷でしか体験できない価値ををいかに見つけ出し、アピールしていくか、ということになるかと思われます。
・大歩危祖谷は特に外国人の方が多くなっています。歴史や伝統の質がどんどん問われてくるのかなと思います。
・かずら橋の訪問者を東祖谷へ誘致する方策が求められていると思います。（団体は無理でも個人客）
【その他のコメント】
・文化財課がなくなったのは関係者としてはなんとも寂しい。教育委員会に属さなくて産業経済部文化財課でもいいような気がする。
視点を変えてこれからの観光行政の肝として考えてもいいのではないか。文化財は観光にはなくてはならないものとして捉えていけばいいと思います。そうすれば文化財施策の認知度も広まり共有の財産として活用していけるのではないのでしょうか。文化財の保護活用に関してはそれなりの経験や知識が必要となります。担当の職員が変わると大丈夫などと心配もします。保護保持に関しては対応期間の長いものや数年おきに気を配らなければいけないもの、常に気を配らなければいけないものなど多種多様です。業務内容も事務と技術が絡み合っています。是非絶え間ない職員の育成と継続性を担保してくださるようお願いいたします。
・普及啓発には、講座や説明会・見学会も重要であるが、地域住民により広く知っていだくためには、地元紙・地元局などのメディアに積極的な情報提供を行う必要がある。
・関係部局、特に観光部局との連携をさらに進めるべきである。
・三好市の文化財に対して無知な方が多くいます。学校で教えてもらうこともなかっただろうし、なかなか知る機会もなかったと思います。市民の方が三好市の文化財を知らないのはもったいない、市報に文化財のコーナーを作って1つずつ紹介していくとか考えてほしい。
・移住者も古民家を希望する方が多いのだが、改修にお金がかかるのがネックである。文化財的な価値がある物件は、空き家バンクとは別の仕組みを作れないだろうか。都会の人が想像している古民家は、綺麗にリフォームされて快適に過ごせる家なため、自分で改修しようとなると現在の空き家改修の補助金ではとても足りない現状がある。難しいとは思うが、そのあたりうまく連携できれば古民家を活用する人はたくさん増えると思う。

（今後の対応方針）
【組織体制】
・ご指摘のとおり、今後は関係部署の積極的な参加を呼びかけ、事業を推進していく。
【重点区域における良好な景観を形成する施策】
・歴史的な建造物が空き家で朽ち消失することで景観が損なわれていくことが、大きな課題となっている。文化財の指定や登録制度を活用し保護していく。また、開発部局等の関係機関との連携の強化するための組織の設置も検討する。
【歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項】
・東祖谷の社叢群は7カ所あり、所有する地区は人口減少が進んでおり、維持が困難な状況となっている。令和4年度は2カ所の社叢群で倒木があったが、処理費には天然記念物に指定されていることから補助金による支援を行うことができた。今後もひきつづき支援していく。
・文化財の情報発進方法として、HPだけでなく、現地でQRコード等でより詳しい情報が得られるような仕組みづくりを検討する。
・整備が行き届いていない施設について、関係団体の意見を聞き取りし整備を進めていく。
【文化財の保存又は活用に関する事項】
・文化財の持続的保存のために、ジオパークの関係団体等と連携し、文化財の保存をより積極的に進めていく。
・阿佐家住宅や公開のみの施設について、公開以外の活用ができていない。観光課等の関係部署と連携し活用を進めていく。
・伝建地区落合での防災整備が進んでいないため、本年度は勉強会を行った。ハードの整備も進めるためにも令和5年度もひきつづき防災勉強会や訓練をおこなう。
【効果・影響等に関する報道】
・次世代の若者に、文化財をより身近に感じてもらうため、新聞等の従来メディアだけでなくSNS等も積極的に活用していく。
【その他（効果等）】
・東祖谷への入込客数は、西祖谷に比べ少ない。しかし指定等の文化財は西祖谷より多い。しかし、活用しきれていないことが数値として現れている。PR不足は否定できない。関係部署と連携し積極的にPRしていく。